



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 7 (令和4年2月)
発行: 伊丹市立幼児教育センター
住所: 伊丹市千僧1-1
電話: 072-780-2488
アドレス: youji-ed@city.itami.lg.jp

梅のつぼみが膨らみ、春の訪れを感じる季節になりました。年長児は小学校への就学に期待と不安をもちながら、過ごしている時期かと思えます。

先日、ある小学校の先生とお話をした際に、私が感じたちょっとした「違和感」についてお話をします。

その先生は、一年生の担任をした時に「国語の授業で“おおきなかぶ”の話をする、子ども達が急に劇をしたい！」と言い出し、自分達で役を決め始めたのでとても戸惑った。」とおっしゃっていました。また他の授業では「1年生はすぐに、先生牛乳パックないの？空箱は？と聞いてくるので困る。」とも話されていました。幼児教育の視点から見ると、子どものありのままの姿であり、むしろ意欲に満ちた姿だと嬉しく感じるのに、小学校では“先生の困り感”に変わるのかとちょっとした違和感がありました。

また、別の日に現小学校教諭一年生担任が「一対一の関わりを求めてくる子どもが多くて大変なんですよ。」と話されていました。幼児教育の視点からは「慣れない場所できっと不安が高くなり、大人との関わりを求めているのかな。」と読み取ります。「一年生は授業中でも、堂々とトイレに行くので困る。」には、「自分の思いをしっかりと伝える子に育ってくれて頼もしい。」と捉えます。3月31日と4月1日のたった一日の違いで、子どもを取り囲む環境(物的環境、人的環境)が大きく変化し、おそらく子ども達は慣れるまでの期間、私が感じた以上の「違和感」の中で過ごしているのではと思いました。

どちらも、幼児の教育・保育要領や小学校学習指導要領に沿った正しい関わりであり、どの先生方も子ども達のためにねらいや目標に向けて一生懸命に取り組んでいます。ただ、子ども主体の遊びを中心とした幼児教育から、小学校の教科中心の教育との連続性には、要領には掲載されていない細やかな配慮が必要だと考えます。職員同士で子どもの発達や学びの連続性について共有し、双方の教育・保育に落とし込むことが必要です。令和4年度は、幼児教育センターでも「幼小接続」についての研修会をさらに充実させたいと企画しております。多くの先生方のご参加を、是非お待ちしております。

★「科学する心」が育つ環境

【1歳児の気づき:自分の影】

右の写真は1歳児クラスの子どもの写真です。園庭でままごとあそびをしていた時に、偶然「自分の影」に気づいた瞬間です。地面に映った影に「あれ？なんだろう？」と気づいています。まだ言葉は発しませんが、近くにいた担任が子どもの思いを読み取り、アイコンタクトで受容し、「そうだね。何だろうね。不思議だね。」とパラレルトークも交えて応答的に返していました。子どもの「気づき」に気付き、受容的・応答的に寄り添うことが「科学する心」の芽を育てる事だと感じた瞬間でした。



【意図的な環境】

左の写真は、ある園の玄関扉に貼られたステンドグラス(カラーセロファン紙)です。何気ない壁面装飾に見えますが、外からの光で、色々な色彩が床面に映っています。周りの保育者は、子ども達の主体的な気づきを待ちます。

【おもしろ分解あそび】

先日、こども園の公開保育研究会に参加した際に、5歳児が没頭しているコーナーの紹介がありました。その名も「分解あそび」。

廃品となった電化製品(ビデオデッキ、カメラ等)を、プラスのドライバーでネジを外し、なんと「分解」していたのです。ネジ穴にドライバーの先が合致すると、ゆっくりと緩みだす過程に、子ども達の表情は一喜一憂で真剣そのもの。ネジが外れた時は「外れた！」と歓声をあげていたそうです。中身を見たり、部品に触れたりする中で、「他の機械はどうなっているんだろう？」と興味が広がっている様子でした。幼児教育の軸は「子どもが自ら環境に働きかける」ことですが、年長児のこの時期に、興味をもった子どもの関心を広げるには、時にはこのような大人発信の遊びも必要であると考えます。

また「STEAM(スチーム)教育」という言葉をよく聞きます。これからのAI時代に「生きる力」として、問題解決力や論理的思考、クリエイティブな発想やスキルの育成が求められています。この園のように乳幼児期から様々な物事に興味をもち、心を動かす経験を大切にしたい幼児教育・保育を行っていきたいです。



令和4年度『保育環境』の充実を図ります

本市は乳幼児期から青年期にいたるまで「主体性の育成」を柱とし、乳幼児期の教育・保育においては「愛情・自然・ことば」と「遊びを通して学ぶ」を基本理念としています。幼児教育関係者で「保育環境」について共有する必要があり、評価の項目自体が「質の高い教育・保育」の考え方を示します。センターでは、令和4年度は往還型研修を実施し「保育環境」について学びを深めてまいります。年齢ごとに環境構成のポイントを写真と解説で可視化し、若手保育者も含めて、手に取ってすぐに参考になるような内容の冊子「保育環境スケール」を皆様と共に作成する予定です。

～幼児教育アドバイザーの ト・ワ・ス・ガ・タ・リ～

園訪問をした際、5歳児同士がケンカをしていました。一人の子が友達をたたいたそうです。すぐに手が出る子に対して、つつい「また叩いたの？この間も言ったのに、なんでわかってくれないの？」と注意しがちです。しかしそのクラス担任は、互いの気持ちを引き出し伝え合うことで、気持ちの折り合いのつけ方に気づくように促していました。また、今後どうすればよいかを周りの友達と一緒に考え合っていました。

家庭環境や言葉の発達など様々な状況があることを十分踏まえた上で、結果を注意するのではなく、一つ一つの過程を丁寧に聞き取る担任の姿勢が素晴らしかったです。

(西山)



★おススメ保育専門書

生活とあそびから見る「10の姿」

著：横山洋子
出版：ナツメ社



「10の姿」をわかりやすく写真付きで説明。とてもわかりやすく、お悩み解決本。新人の方におススメです。

子どもと保育者でつくる育ちの記録

—あそびの中の育ちを可視化する—
監修・著：北野幸子
著：大阪府私立幼稚園連盟
第26次プロジェクトメンバー
出版：日本標準



保育の可視化ってどうすればいいの？ドキュメンテーションを学びたい方必見。年齢別に事例とともに紹介されています。

非認知能力を育てる「しつけない」しつけのレシピ

著：大豆生田啓友 大豆生田千夏

保護者が感じている困りごとに日頃どのように応えていますか？イライラしている保護者、あせっている保護者、どのように支えますか？この本を見ればきっと見つかります。



☆ご紹介の専門書は貸本として幼児教育センターに置いてあります。是非お越しください。